



世田谷パブリックシアター×玉川地域社会福祉協議会事務所共催企画 「大学生演劇ボランティア」

事前講座: 6月3日(金)、7月8日(金) **WS日程:** 9月1日(木)、8日(木)、15日(木)、18日(日)、25日(日)、10月1日(土)
公演日時: 10月2日(日) 10:30～12:00/14:00～15:30 『劇団新風』～演劇で知る! 地域の頼れる仕組みのアレコレ～』
場所: 等々力まちづくりセンター活動フロアー **進行役:** すずきこーた **進行役アシスタント:** 高野菜 **大学生演劇ボランティア:** 10名

社会福祉協議会が実施している3つの事業「あんしん事業」「私のノート」「ふれあい・いきいきサロン」を周知したいという玉川地域社会福祉協議会からのご依頼を受け、劇場と同社協とで企画を立ち上げました。分かりやすい劇で知ってもらうだけでなく、福祉人材の発掘と育成もくろみ、劇を創作・出演する大学生ボランティアを公募することとなりました。

そうして集まったのは10名の学生たちです。稽古初日、シアターゲームでお互い知り合ったあと、「あんしん事業」の生活支援員の方にインタビューをしました。生活支援員になったきっかけ、活動内容や困ったこと、嬉しかったことなどを伺い演劇に立ち上げました。そうすることで、「あんしん事業」がただの仕組みでなく、地域の繋がりの一つになっていることを知ることができました。

その他、「ふれあい・いきいきサロン」を見学したり、「私のノート」を実際に書いてみたりと、学生たちは短期間の間で様々なことに触れ、学び、自身自身も見つめました。そこから演劇をつくり、みんなで意見交換をしてみたり直すということを繰り返して進めていきました。その間、意見の相違や、本当にこれで伝わるのか、そもそも何を伝えたいのかなど、多くの迷いや葛藤がありました。けれども、社協の職員さんや地域のサポーターの皆さんにアドバイスをいただきながら、諦めることなく、より良いものをつくるための共同作業を続けていきました。

公演当日、民生委員や生活支援員、チラシを見て興味をもってくださった地域住民の方々など、10代から高齢の方まで、午前午後の回をあわせて約60名の方が観にきてくれました。ご覧になった方からは、「難しい制度を理解できた」「人のつながりの大切さを知ることができた」「暮らしを豊かにするサポートがあると知れた」「学生みなさんに元気をもらえた」など、多くの感想をいただきました。また、若い世代と高齢者との交流の場もつくることができました。

今回の取り組みは、地域の多様なつながりと相互理解を生み出し、アートを通じた新たな地域連携のあり方を提示するものとなりました。来年2月には、用賀地区の社協での再演も予定しており、活動はまだまだ続いていきます。



「世田谷パブリックシアター中学生演劇部～区大会編～」

WS日程/場所: 8月27日(土)、28日(日)、9月4日(日)、18日(日)、19日(月・祝)、25日(日)、10月1日(土)、2日(日)、9日(日)、10日(月・祝)、16日(日)、22日(土)、23日(日)、29日(土) / 劇場稽古場、世田谷区立砧中学校、シアタートラム
区大会上演日程/場所: 10月30日(日) 『レビューショー 私が私であるために～子どもの権利条約より～』 / 成城ホール
進行役: 大道朋奈 **進行役アシスタント:** 小林遼 **参加者:** 中学生16名

「世田谷パブリックシアター中学生演劇部」は、いろいろな学校から集まってきた中学生総勢16名が、進行役のともにや(大道朋奈)、アシスタントのガイ(小林遼)とともに14回のWSを積み重ね、「世田谷区立中学校演劇発表会」(区大会)で発表しました。

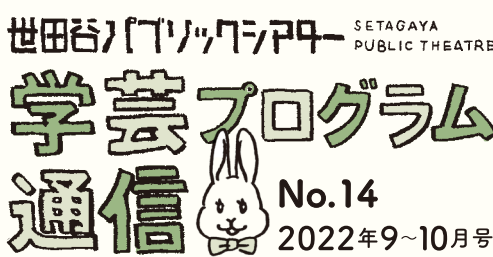
WS初日、みんな緊張して固くなっているかと思いきや、やる気と活気に満ち溢れていました。シーンを作り直すさいにも、進行役のアドバイスを吸収し、「より良くしよう」と自分たちでアイデアを出し工夫していました。

お互いのことが少しわかってきた頃、進行役から今年の劇のテーマが「子どもの権利条約」であることが伝えられました。「子どもの権利条約? 聞いたことはあるけれど、なんだろう?」と、みんなキュトンとした様子でした。「権利」という言葉は必ずしも中学生のみんなにとって身近であるとは言えません。権利条約がつくられた経緯や、「権利」とはなんなのかを調べたり、学校でのこと、家でのことを話したりと、いろいろな切り口から取り組みました。「子どもの権利条約かるた」の絵札をシーンにしてみたのも、「権利」を身近なものとして捉えるのにとっても有効でした。「自分達の権利」について、粘り強くトライし続け、少しずつ「権利」の姿を浮かび上がらせていきました。

また今回、進行役のともにやの発案で、宝塚のレビュー形式を取り入れて作品を構成。宝塚の代表作『ベルサイユのばら』のテーマソング「愛あればこそ」を「権利あればこそ」に置き換え、劇のテーマソングとし、ダンスシーンも盛り込んで、躍動感のある作品に仕上げていきました。発表会では、みんな堂々と力強く歌い上げ、自分達にとっての「権利」やWSを通じて考えたことをストレートに客席に届けることができました。



ゆうメール



劇場を出ると、たくさんの人たちが空を見上げてスマホを向けているので、何かと思わず顔を上げると、なんとそこには赤銅色の月。「皆既月食!」思わず声が上がってしまいました。空に浮かび上がった褐色の月の満ち欠けはなんと幻想的で、しばらくの間、月の変化の様を見つめていました。

今年の秋は深まりが早く、朝晩の冷え込みもきついですが、昼間は本当に雲一つない秋空が広がる気持ちの良い日が多かったですね。それでも、まだまだ、新型コロナウイルスの感染は収束の気配を見せてくれませんが、劇場の学芸チームは元気いっぱい活動を繰り広げました。

まず、玉川地域社会福祉協議会との共催で行った「大学生演劇ボランティア」では社会福祉協議会が実施している事業の周知を図るために、応募で集まってくれた大学生の皆さんと演劇仕立てにして内容を伝える作品を作りました。劇団名も出来て、その名も「新風」。集まってくれた地域住民の皆さんにも「分かりやすい」と好評で、たくさんの質問も出て会は大変盛り上がりしました。改めて、事業内容をしっかり学んで作品作りに関わってくれた大学生の皆さんには心から感謝します。

また、夏休みの後半から始まった「世田谷パブリックシアター中学生演劇部」は、いろいろな学校から集まった中学生と共に区大会に出るための作品作りに励みました。世田谷区には29の中学校がありますが、その中で演劇部があるのはわずか8校だけ。ばらばらの中学校から集まった16名のメンバーはまとまりも良く、意見も活発に交わりながら自主的に作品作りをしてくれました。今年の作品のテーマは「子どもの権利条約」。自分達の身近な問題から、子どもにもさまざまな権利があることを伝える力強い作品になりました。区大会ではこの課題を歌やダンスも交えてレビュー形式で力強く訴え大成功。他校の中学生の作品も含めて、そのエネルギーに新型コロナも吹っ飛ばす勢いでした。

他にも、舞踏団の大駱駝艦に所属する田村一行さんによるトーク「ダンス食堂」や「デイ・イン・ザ・シアター」。また、SPTラボラトリーレクチャーでは、「障害と舞台芸術」と銘打って、障害者の方々が舞台芸術に触れる機会を増やしていくための制度の広がりについて考えを深めました。また、小学校を巡る「かなりゴキゲンなWS巡回団」も新型コロナ感染を乗り越えて多くの学校で活動することができ、加えて、下馬地区アートプロジェクトの「だれでも写真クラブ・極楽」の活動も順調に進み、12月に予定している「極楽フェス」での発表が楽しみです。

直接、人と人がコミュニケーションを取ることで生まれる喜びは、私たちの生活に元気を取り戻してくれます。冬場に差し掛かり、まだまだ安心ができない状況は続きますが、十全の注意を図りながら活動していきたいと思います。ご支援よろしく願いいたします。

2022年10月 世田谷パブリックシアター・芸術監督 白井 晃

11月・12月のピックアップニュース 10月31日時点

*WS=ワークショップの略

子ども	11月13日(日)	「世田谷パブリックシアター中学生演劇部～区大会編～」	中学生のための演劇WS
	11月23日(水・祝)	「ごちゃまぜ演劇ワークショップ 11月のおさんぽ編」	劇場で行う子ども対象WS
区民参加	11月6日(日)・20日(日)・12月17日(土)	『舞台芸術のクリエイティブ2022-23』	批評を实践する講座
	11月21日(月)	「世田谷パブリックシアターダンス食堂 メニュー21 田村一行」WS	劇場で行う短時間のダンスWS
	11月25日(金)	「デイ・イン・ザ・シアター～日常のささやかな大ピンチ!?編～」	劇場で行う短時間の演劇WS
地域連携	11月1日(火)～14日(月)	「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校全学年	区内小学校の学芸会支援
	11月1日(火)～10日(木)	「かなりゴキゲンなWS巡回団」山野小学校5・6年	区内小学校の学芸会支援
	11月10日(木)・24日(木)・12月1日(木)	下馬地区アートプロジェクト「だれでも写真クラブ・極楽」	高齢者の居場所づくり
	11月21日(月)・12月15日(木)	「かなりゴキゲンなWS巡回団」ほっとスクール城山	適応指導教室でのWS
	12月10日(土)	極楽フェス	下馬地区で行うアートフェスティバル
専門家育成	11月24日(木)・12月16日(金)	【演劇WSラボ】SPTラボラトリーレクチャー『演劇ワークショップと学校教育～20年を振り返る、そしてこれから～』	演劇WS専門家育成

9月



レポート

專門家育成

事務所共催企画
すずきこ一た)

すずきこ一た) 美術～制度と広

連携

連携

事務所共催企画

事務所共催企画

進行役：金川晋
スマートフォンカメラ
内容とした。慣例

みやまあゆみ)

WS 区民参加

WS 区民参加
『(進行役:大西由
』(進行役:大西由
『(進行役:大西由

16回目 子ども

16回目 予とも

⑨ 專門家育成

⑨ 專門家育成

事務所共催企画

事務所共催企画

0 / 1000

6/16回目

連携

すずきこ一た)

ラブ」⑤ 専門家

ラブ」⑤ 専門家

前回(8/19)は、障害者を取り巻く芸術文化活動の環境整備、制度のあり方が話の中心でしたが、今回は日本での実践例を聞くことができました。受講者には障害当事者、アーティスト、支援者など、様々な立場の方がおり、その交流も印象的でした。

「漫画のような架空の世界に入るとしたら、どんなことがしたいか」を想像し、模造紙に自分を主人公にした絵を描いたあと、顔をくりぬいてオリジナルの顔ハメパネルを作成。その後、それぞれの顔ハメパネルを持ち寄って、グループで「漫画の世界でしたいこと」を劇にしました。

10月

31日(月) ● 「かなり」キケンなWS巡回団」弦巻小学校2年生(進行役:すすきこ一た) 地域連携

各中学校に劇場スタッフが訪問して技術打ち合わせを行い、中学生たちのイメージを聞き取ったり、疑問に答えたりし、舞台を作り上げる過程から支援しています。オペ操作や様々な注意点などの指導はしますが、中学生たちが一生懸命作り上げてきた作品を、上演まで自分たち自身でやりとげていることを大切にしています。